

常盤建築網

準会員 ○良田允*
正会員 ※岡松道雄**
同 ※宋俊煥***

* 山口大学大学院創成科学研究科 建設環境系専攻
** 山口大学大学院創成科学研究科 教授・博士（工学）（※設計指導）
*** 山口大学大学院創成科学研究科 准教授・博士（環境学）（※設計指導）

Tokiwa Construction Network

○YOSHIDA Makoto*
※OKAMATSU Michio **
※SONG Junhwan***

* Graduate Student, Department of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.
** Dr.Eng., Prof. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ. (※Adviser)
*** Dr.Env., Prof. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ. (※Adviser)

1. 背景

常盤池、常盤用水路は、1625（寛政2）年に宇部に左遷された福原氏が米の増収計画のために、1695年に常盤池築堤に着手し、1698年に常盤池が完成した。さらに溜池、用水路工事、検知等関連作業が1701年に完成し、約303.4haの水田を灌漑することができたとされる。しかし、近年目立つ宅地化により多く存在していた水田は現在約6.2haと大幅に減少した。その結果、枝分かれしている用水路が徐々に閉鎖されており、常盤用水路の存在を知る人は多くはない。また、閉鎖された用水路は埋め立てられ、人の目が届かない住宅地のすき間に追いやられている。本提案では、忘れられた遺構である常盤用水路の特性を活かし、日常的に触れることができる計画を行う。

2. 常盤用水路の特性

常盤用水路は貴重な水を無駄なく使うように計画されていた。そのため常盤用水路、管理道は地形に沿って形成されており、緩勾配である。また、管理道は最大でも幅員1.8mであるため車が通らず、歩行者の通り抜けに利用される。



3. 対象敷地

記念館は常盤池付近の本土手に計画する。常盤池の他に常盤用水路、夫婦池など宇部市の重要な遺産が残っているが、周りは林に覆われて道路側から目視することは難しい。

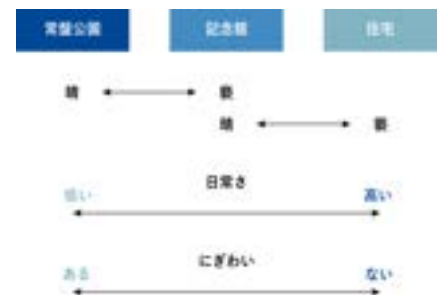
住宅は切貫の用水路が流れている住宅地に計画する。用水路沿いには舗装された管理道が残っており、通り抜けの歩行者や自転車が見受けられる。また、用水路に面した住宅には塀や壁が存在し、用水路側は住宅の裏側となっている。



4. 設計概要

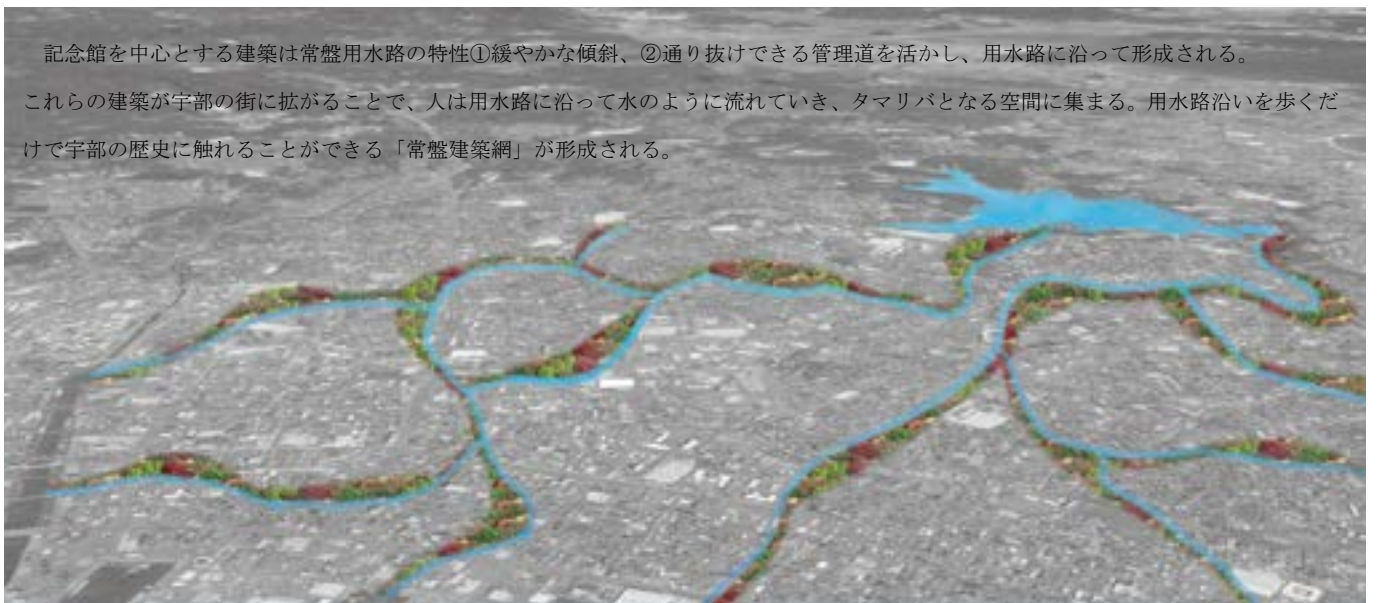
常盤用水路、常盤池など宇部市の歴史について知ることができる記念館、宅地化された住宅と常盤用水路の隙間の増築を計画する。

常盤池のある常盤公園を宇部の歴史に触れる「晴」としたとき、より日常的に触れることができる記念館を「曇」とする。また、記念館を常盤用水路について触れる「晴」としたとき、より日常的に触れることができる住宅の隙間増築を「曇」とする。常盤公園 - 記念館 - 住宅は常盤用水路、宇部の歴史に段階的に触れることができる。



記念館を中心とする建築は常盤用水路の特性①緩やかな傾斜、②通り抜けできる管理道を活かし、用水路に沿って形成される。

これらの建築が宇部の街に広がることで、人は用水路に沿って水のように流れていき、タマリバとなる空間に集まる。用水路沿いを歩くだけで宇部の歴史に触れることができる「常盤建築網」が形成される。



所在地：山口県宇部市亀浦 1丁目1、野中 4丁目 10
 主な用途：記念館、住宅
 敷地面積：6340m²、734.1 m²
 建築面積：1715.7m²、44.5 m²
 延床面積：1129.3m²、61.9 m²
 キーワード：用水路、歴史、レインスケープ

Location : 1-1 Kameura, Ube City, Yamaguchi Prefecture
 4-10 Nonaka, Ube City, Yamaguchi Prefecture
 Main Use : Memorial Hall, Housing
 Site Area : 6340m², 734.1 m²
 Building Floor Area : 1715.7m², 44.5 m²
 Total Floor Area : 1129.3m², 61.9 m²
 Keywords : Irrigation Canal, History, Rainscape

5. 記念館



常盤公園の入口、駐車場に挟まれた敷地の特性を活かし、動線上に遺産を歩きながら見るような、抜け道となる記念館を設計する。記念館は4棟で構成されており、それらを回廊で繋ぐ。常盤池、荒手の滝、本土手・夫婦池、常盤用水路と段階的に触れるようにする。また、橋を渡ると常盤用水路沿いの管理道が存在しており、そのまま夫婦池を周回できる既存の道も構成されている。



6. 住宅



断面図



住宅と用水路の間に存在する壁をなくし、住宅を用水路に開くように増築を行う。増築部分は共用玄関や洗い場、洗濯、休憩スペースとして利用され用水路側に人を誘導する。用水路側に人を誘導したことで、あまり使われてこなかった管理道が人々の新たな動線として利用される。また、今後雨水処理の利用が目立つ用水路を活かすように、雨水は用水路に流れるような屋根勾配にした。水が流すコンクリートであった用水路もレインスケープの導入により、家庭菜園など緑あふれる空間となり雨水を再利用する新たなエコシステムが生まれる。

